
第 8 期事業年度 事業報告書

(自 2018 年 6 月 1 日 至 2019 年 5 月 31 日)

目次

- I 第8期事業年度事業の報告
- II 新事務所の建設について

I 第8期事業年度の報告

2019年7月30日 事務局

1. 団体の概要

(1) 法人の目的

東北太平洋沖地震により、激甚な被害を受けた岩手県大槌町において、町民や専門家の幅広い知恵と行動力を結集し、まちづくりに関する事業を行い、観光業、商工業、農水産業の発展と、それらの担い手である大槌町民の生活再建に寄与すること。

(2) 事業内容

[法人定款より]

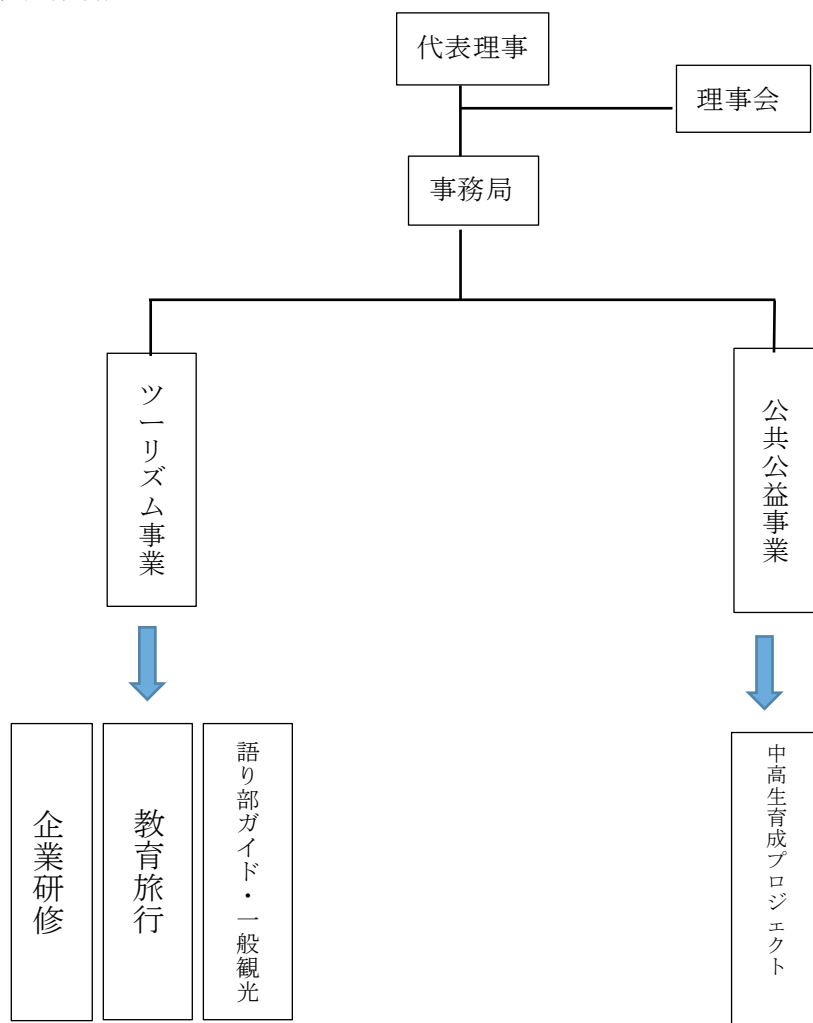
- 住民参加型復興まちづくりに関する、調査研究やその補助事業
- 効率的な町づくりの運営に資するための委託事業
- 津波被害前後の大槌の歴史や資源、景観等に関する情報の収集・蓄積および展示、インタープリテーションを含めたタウンミュージアム事業
- 災害ボランティアや視察研修等の誘致と、そのアメニティ向上
- 大槌町民と国民、行政およびその外郭団体とのネットワークの促進
- ご当地グルメや観光資源の発掘・開発、イベントの実施など、地域振興に資する事業
- 飲食（ご当地グルメ）の提供
- 前各号に掲げる事業に附帯または関連する事業

2. 第8期事業年度の取り組みについて

(1) 具体的な取り組みの報告

今年度も、昨年度までの体制を概ね継承して①公共公益的な事業②観光振興に資する事業という2つの事業を展開した。

[事業執行体制]



a) ツーリズム事業

「第7期ツーリズム事業受入実績表(2018.6.1～2019.5.31)」

受け入れ総数		<<内訳>>					
人数	団体数	企業研修		教育旅行		海外	
		人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数
3,148	215	816	39	1,240	31	167	13

①企業研修

企業研修の受入実績は、昨年度より人数は増加、団体数が微減となっている。リピーター率は、引き続き7割以上である。このことは、今までの旅行会社を通じた企業研修や県南振興局との連携による誘致活動のおかげである。また、当団体の研修内容を知っている旅行会社の営業スタッフが、転勤となった先で当団体のコンテンツを広めてくれるなどの効果も数件あったことが、今年の特徴といえる。

また、今年度はYahoo!基金の助成金を受け、新コンテンツの開発を行うことができた。そのご縁で、隣接する釜石市鶴住居地区の震災伝承の取り組みを担当している方と連携し、デモツアーの受け入れを数件行なったほか、この地域への呼び込みについて意見交換を行うことができた。今後、大槌町単体で呼び込むことに限界が見えている中で、近隣市町村と共に研修事業を展開していけることは、大きな財産となっていくと感じている。

②教育旅行

教育旅行受入数は微減したが、新規の問い合わせや視察が増えている。公立高校からの問い合わせが増えており、震災から月日が経ったからこそ、安心して生徒を連れてくることができると考えている学校もあるようだ。実際に訪問するのは、引き続き首都圏の私立系の学校が主流である。今期より、代表理事の神谷が大槌高等学校の魅力化構想委員を務めていることもあり、大槌高校や高校生を絡めた企画を行うことが出来そうな機運がある。地元高校生と交流できるコンテンツは、今後強みとなるため、来年度は大槌高校との交流企画を数件行い、流れを軌道に乗せていきたい。また、引き続き岩手県や県内の広域DMC機構と連携し、県外のみならず県内からの教育旅行を充実させる潮流を作っていく。さらに、来年度は、Yahoo!基金で開発した新コンテンツを教育旅行でも展開していけるよう、ファシリテーション法などを学び直し、コンテンツの増加を図っていく。

③語り部ガイド・一般観光

語り部ガイドの受入人数は引き続き減少している。大きなツアー団体の件数は減り、個人旅行でこられるお客さんが増えている。今年の3月より、三陸鉄道が開通したため、現在は鉄道旅行を楽しむ個人のお客様の受け入れが増えている。語り部ガイド事業は語り部を担う町民にとって、自身の経験を伝承することで気持ちを整理することにもつながり、また多くの人たちとの交流を「生きが

い」と感じていることから、個人のお客さんが増えたことは、お客さんとの密なつながりも増えていることとなり、ガイド本人たちからも喜ばれている。今後も、新規町民ガイドさんを開拓しつつ、可能な限り継続していく。

b) 公共公益事業

①中高生育成事業

中高生の育成事業としては、『高校生起業体験』（主催：放課後 NPO アフタースクール）と、『大槌町姉妹都市受け入れ事業』（米国カリフォルニア州フォードブラッグ市）を行なった。高校生起業体験は、6 回目の開催となり、今期からは町内事業者さんと一緒に有楽町駅前にて、大槌の物産を販売する方法をとった。自ら「起業する」というプロジェクトの主旨を踏まえつつ、地元で頑張る事業者さんたちと協力することで、普段知らなかった大槌町の大人と触れ合う時間となり、高校生にも刺激を与えることが出来たようだ。また、本取り組みを通じて知り合いとなった高校生たちは、学習旅行で訪れた都市圏の高校生との交流事業にも参加してもらうなど、起業体験に留まらない形で様々な経験を積んでもらうことができたと思われる。

姉妹都市交流団受け入れ事業は、受入期間中のイベントの企画運営を、中高生有志中心に行なってもらった。海外に興味がある中高生は多く、また英語を使いたいと感じている生徒も多数いる。そのため、中高生ごとにグループを作ってもらい、担当する企画（ウェルカムパーティー、BBQ 懇親会、さよならパーティーなど）ごとに、イベントの内容や進行などを考えていってもらった。これにより、中高生生徒の主体性を育む機会になったと感じる。

3. 新事務所の建設について

2019 年 5 月に大槌町松の下地区に新事務所の建設が完了した。事務所の一部はコミュニティスペースとして解放し、地元の方々や打ち合わせなどに使いたいの方々等に使っていただくように広報していく。なお、事務所の登記が 6 月となったため、事務所建設費等の決算への反映は来季となる。